

ホタル通信

HP:<http://www.oyama-hotaru.com>

No.160 2018.5.10

<小山のホタルと自然を守る会>

事務局町田市小山町 2545-6

Tel (797-5310)



ホタルの飛翔を待ちわびる丸木橋周辺

昨年のホタルの初見は5月31日でした。今年もまもなく一年ぶりのホタルの飛翔が見られるかもしれません。(盛期は6月中旬頃かも)

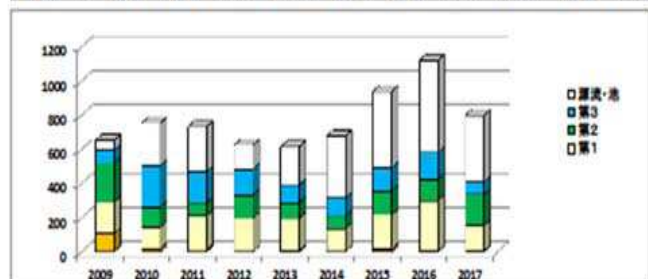
昨年の6月頃に産卵した卵から生まれた幼虫が9か月間もカワニナを食べての水中生活から、多分今年の4月頃の雨の日に上陸し、現在は、その幼虫が地中で繭玉になってホタルの成虫に羽化するのをジーと待っている段階と想像されます。

右の発生の年度推移のとおり昨年は減っています。谷戸を取り巻く環境の変化の影響なのか心配です。

今年のホタルの飛翔に乞うご期待を！！

片所谷戸ホタルの発生推移(2009～2017)

発生場所(ゾーン)	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	前年比 %
下流	110	19	10	0	7	0	16	2	5	250.0
第1	181	124	201	197	189	137	203	298	149	50.0
第2	231	120	77	137	91	72	137	125	183	146.4
第3	74	243	183	148	106	107	137	157	72	45.9
源流・池	58	248	262	144	223	363	446	539	390	72.4
計	654	754	733	626	616	679	939	1121	799	71.3



発生場所(ゾーン)毎の推移 単位:頭

発生場所(ゾーン)

片所谷戸の流水・湧水量の調査結果報告（要略）

片所谷戸の東側斜面の区画整理事業により多量の樹木が伐採された。そのために森の保水力の低下により今までの谷戸の水路に湧き出ている湧水が枯渇するのではないかと危惧し、谷戸全体の流水・湧水の現況の把握と、併せて、ホテルにとってエサになるカワニナの生息状況等を調査したものです。調査期間は昨年度一年間で月2回ずつ調査した。



湧水を土嚢でせき止め塩ビからの水量を計測

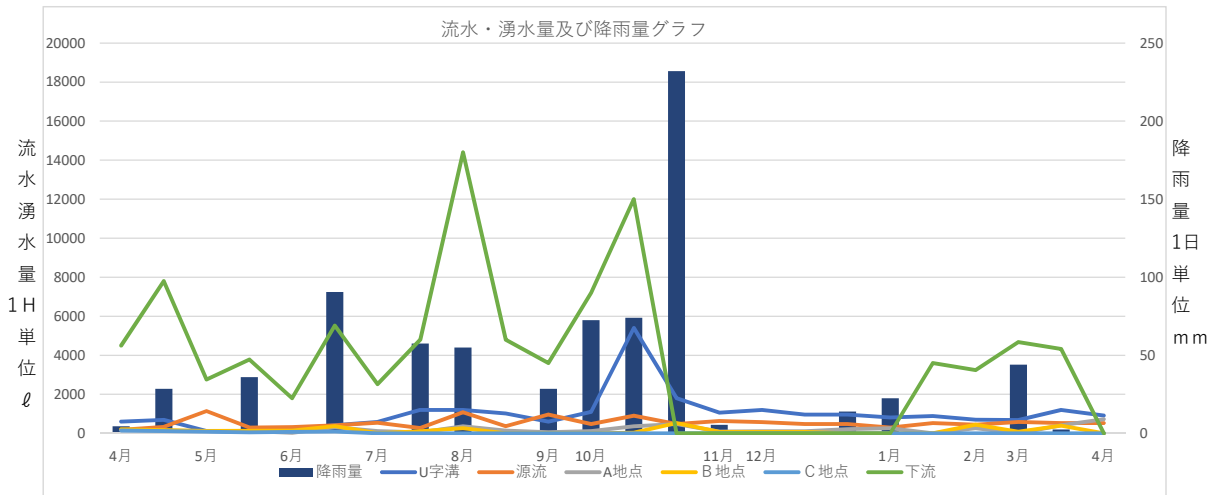


カワニナの調査地点

調査地点ごとのデーターは下記の表のとおりです。

流水・湧水量及び降雨量データー（一時間あたり）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	月平均												
U字溝	600	690	120	75	186	420	588	1200	1020	600	1104	5400	1800	1056	1200	960	960	816	888	696	684	1200	912	1016		
源流	180	330	1140	300	324	408	540	270	1080	360	960	480	900	480	636	576	480	480	300	528	444	588	528	528	535	
A地点	180	147	114	120	24	312	120	48	360	144	60	120	360	480	96	108	108	216	264	0	264	0	408	720	193	
B地点	207	162	126	135	145	372	12	108	264	0	0	0	36	528	72	72	72	0	0	0	444	84	396	0	120	
C地点	144	114	84	52	74	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
下流	4500	7800	2760	3780	1800	5520	2520	4800	14400	4800	3600	7200	12000	崩壊	崩壊	崩壊	崩壊	崩壊	崩壊	崩壊	3600	3240	4680	4320	崩壊	5372
降雨量	4.5	28.5	2.5	36	0	90.5	0	57.5	55	1.5	28.5	72.5	74	232	5.5	0.5	0	14	22.5	0	0	44	2.5	0		



◎水量について

U字溝 トンボ池を経由して流れ出ている水で、水源はほとんど隣接の敷地からのものです。他の調査地点（下流を除く）で最多であったが月ごとの水量にムラがあった。年平均一時間当たり1016ℓ

源流 谷戸の本来の水源で水量は安定していた。年平均一時間当たり535ℓ

A、B、C地点 谷戸の東側斜面から湧き出ている水で、年度途中から少量の水量のため計測不能の月が多かった。3地点合わせた水量は年平均一時間当たり336ℓでした。

下流 谷戸全体を流れる水量で年平均一時間当たり5372ℓで8月に14400ℓ、最少は6月の1800ℓと8倍の差があった。降雨量に大きく影響される。大雨のため10月に計測施設が崩壊してしまいました。

◎水温について

各調査地点の平均水温は、15℃～18℃であり夏でも最高22℃、冬でも最低11℃であり安定していた。

◎カワニナについて

各調査地点の合計延べ匹数は620匹であり、春夏秋冬を通して安定的な生息数でした。

評価

- 1、U字溝、源流、A、B、Cの合計水量は1887ℓで下流の全体水量の35%でしかない。降雨の影響や谷戸に染み出ている目に見えない湧き水が多量にあると思われる。
- 2、A、B、C地点は当初ある程度の水量であったが、年度途中から計測不能が多くなっているのは区画整理事業の影響か？
- 3、U字溝からの水は市民の好意による谷戸外からの「もらい水」です。安定的な確保に課題を残すかもしれません。
- 4、一番安心したことは、年間を通して温かい水温と多くのカワニナの生息が判明したことです。水の心配を除けばホテルにとって大変住みやすい谷戸といえるでしょう。

課題

- 1、東側斜面からの湧水量は、区画整理事業のが完了し宅地化がなされた場合に増々水量の減少及び枯渇が心配される。引き続き調査が必要です。
- 2、そして、東側の湧水の枯渇と「もらい水」の不安定さを考え合わせると水量の安定化のための抜本的な対策が必要と考えます。